

3 「オンラインワンの産業づくり」について

要策
主施

1 農業生産基盤の整備

- (1) 県営担い手育成型畑地帯総合整備事業として継続事業の那間・第二那間地区の整備及び新規岸元地区の整備
- (2) 農道保全対策事業（与論地区）の推進
- (3) 県営担い手支援型畑地帯総合整備事業による麦屋地区の土層改良及び畑かん事業の整備
- (4) 農地・水・環境保全向上対策事業の推進
- (5) 水質保全対策事業（耕土流出防止型）古里地区の整備

2 農業の振興

日本の農業を取り巻く環境はWTO農業交渉や原油高による生産資材や輸送費の高騰、農畜産物の輸入功勢、産地間競争の激化、農業従事者の高齢化に伴う担い手農家の減少及び消費者の食の安全安心への関心の高まりなどから、国は食料、農業、農村基本計画を策定し新たな施策を打ち出しました。

こうした中であって本町の農業振興については、国の施策方針にそいながら、今後もさとうきびを基幹作物として位置づけ、肉用牛・輸送野菜、花き・果樹を重点作目とする複合経営の第一層の推進を図るため次の事に取り組んで参ります。

- (1) 担い手農家の育成
認定農業者や農業生産法人の育成、小規模経営農家の共同利用組織への加入促進
- (2) さとうきびの振興
① 依然として厳しい状況にある栽培面積及び生産量の減少の対策として、さとうきび増産プロジェクト計画による各種施策の展開
- ② 農作業受託組織等の担い手の育成
- (3) 園芸の振興
① 輸送野菜の生産拡大・品質向上のための種子代、トネル施設の一部助成による生産安定の推進
- ② 新たな作物導入のための展示ほ設置ならびに講習会・研修会の実施
- (4) 畜産の振興

畜産については、飼料価格の高騰、消費者の購買意欲の低下による価格低迷が続いていますが、引き続き次の事に取り組んで参ります。

- ① 優良繁殖牛の保留及び導入・優良種牛の精液確保
- ② 技術導入による低コスト・高品質飼養管理技術の確保
- (5) 環境保全型農業の推進
① 堆肥センターの良質堆肥を活用した環境保全型農業の推進
- ② 有機認証農家やエコファーマーの育成
- (6) 耕地防風林の造成として防風林用苗木代の助成

3 水産業の振興

水産業については、原油高による燃料費の高騰や漁価の低迷等、依然と厳しい状況の中若い意欲的な後継者も多く、漁船の大型化・漁業技術の改善などの明るい展望がある中で、今年度も引き続き離島漁業再生支援交付金を活用した事業を実施し、漁家の経営安定を図ってまいります。

4 商工観光業の振興

本町の商工観光業を取り巻く環境は、依然として先行き不透明であり、大変厳

しい状況にあります。

特に観光面は航空会社JALグループの機構再生に伴い、低利用運行路線の見直案が出ている中で、直接乗り入れのあるJAC並びにRACと連携を図り、その影響を最小限に止める施策を講じるとともに、従前同等以上の利便が確保できるように努力してまいります。

このような現状を踏まえ、次のことに取り組み商工観光業の振興発展に努めて参ります。

- (1) 商工業の振興について
与論町中心市街地活性化基本計画等の各種計画に基づき、交差点改良を推進し利便性を図りながら、地域ICT事業を活用した個性豊かな魅力ある商店街づくりを推進します。
- (2) 観光産業の振興について
① 誘客対策として
・ 航空船舶会社及び各旅行者者、観光連盟等関係機関への積極的なアプローチ及び緊密な連携の強化
・ 各種イベント内容の充実（記念大会）
・ 各種メディアの活用及び高速インターネットを活用するとともにホームページ等内容の一層の充

実を図りPR活動の推進

・ ヨロンマラソン2011（20回記念大会）及び観光協会主催各種イベントを活用し、広く島内外への情報発信

・ ゆんぬ体験館（仮称）を建設し、文化の伝承を図りながら、体験型観光（修学旅行等）の積極的な誘致
・ ゆんぬツーリズム（グリーン、ブルー、ヘルスツーリズム）を活用した一層の滞在・定着型観光の推進

② 受入態勢の充実として、
食の地産地消や健康長寿食材の活用及び体験型メニューの開発、更に、老朽化した観光施設の整理、景観美化（路傍植栽・花いっぱい運動）等の積極的な展開を図り、新たな旅行商品として造成を図る。

③ 推進体制の充実として、
観光を担う人材の育成や観光協会、関係機関及び各種団体等との連携、及び、隣県沖縄とのスポーツ・文化活動等積極的な地域間交流の促進を図ります。